

KIRAWAYを活用した 観光地域づくりの可能性



北根室の広大な牧場地帯を通る
全長71.4 k mのロングトレイル



KIRAWAYの創始者である佐伯さんが2005年からコースの整備を始めた。約6年もの年月をかけ、現在のルートが整備され、現在も佐伯さんを中心に数名のメンバーにより、コースの整備と維持をしている。

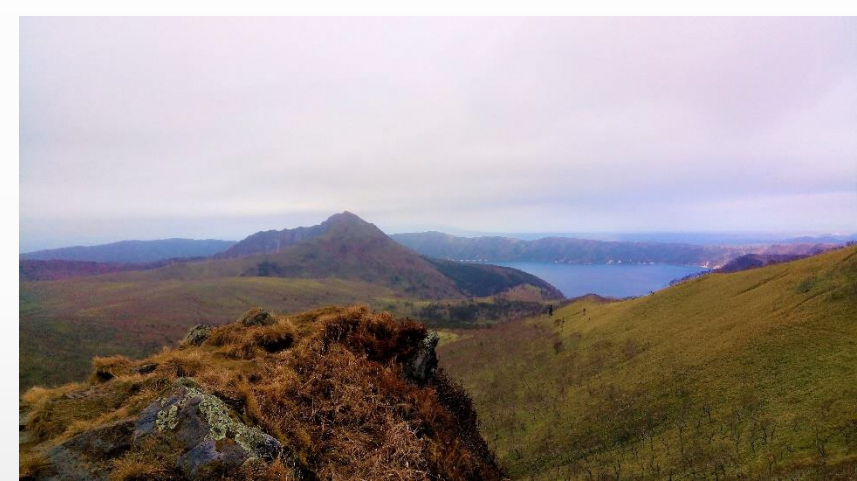
中標津の雄大な自然景観だけではなく、酪農家の牧場を近距離で楽しむことができる。



実際に歩いてみて・・・

- ・牛のすぐ近くを歩ける
- ・特色ある動植物に出会える
- ・自然に馴染んだ標識デザイン
- ・コースのバラエティと達成感
- ・トレッカーの気持ちを考えたコース整備

牧歌的な風景や格子状防風林、摩周湖などの自然景観はもちろんのこと、佐伯さん、長正路さん、山宮さんのガイドによって、トレッキングをしながら中標津および道東の文化や歴史を学ぶことができることに大変魅力を感じた。



中標津町とKIRAWAYの現状

中標津町	内部環境	〈強み〉 ・豊かな大自然と四季の変化による多彩な景色 ・おいしい食材と温泉 ・空港との密接さ ・開拓の歴史 ・軸としての酪農がある ・市街地、自然、酪農がコンパクトに	〈弱み〉 ・知名度の低さ ・空港からの二次交通とホテル不足 ・ビジネスユースに依存 ・情報の不十分さ(情報発信力の弱さ) ・各機関の連携 ・町民全体の観光に対する意識の薄さ
	外部環境	〈機会〉 ・町の観光への取り組み強化 ・環境、景観保全の意識醸成 ・LCCの乗り入れの可能性 ・外国人観光客の増加 ・観光客の志向転換(個人旅行へ)	〈脅威〉 ・観光振興による競争の激化 ・道東ビジネスモデルの変化 ・北朝鮮など国際情勢
KIRAWAY	内部環境	〈強み〉 ・マーク、グッズのセンス ・トレイルを守るコアなメンバー ・酪農文化の活用	〈弱み〉 ・維持管理(草刈りなど) ・町民の認知度 ・関係機関との連携が不足
	外部環境	〈機会〉 ・アウトドア、トレラン志向の上昇 ・健康志向 ・酪農文化を発信するツールとなっている	〈脅威〉 ・人口の減少による担い手不足、マーケットの縮小 ・高齢化(管理者、訪問者) ・酪農家の協力 ・口蹄疫など、酪農にとっての事故が発生する恐れがある

KIRAWAYの存続が今、岐路に

(1) KIRAWAYの本格的観光化による酪農家の懸念拡大

- ①多様な人々の利用
- ②ベース産業への危険（防疫）

(2) KIRAWAYサポート体制維持への不安材料拡大

- ①地元の協力（酪農家、地域、家族）
- ②男たちの体力
- ③担い手の不足
～ ただの消費に終わりかねない

(1) 利用ルールの徹底

KIRAWAYは国有林、町有地、民有地などの
地権者の理解のもと通行できるロングトレイル。
未来に永続できるようルールを守る。

・地図に沿って通行	・ゴミも持ち帰り	・ゲート(マンパス)の締め忘れに注意
・動植物を大事に	・トイレは所定の場所で	・他人に配慮
・酪農地帯の臭いは我慢	・事前に情報を収集して計画	・トレイル上の状況の連絡
・夜間通行の禁止	・ペットの持ち込み禁止	・技術、体力、経験に応じた無理のない計画
・悪天候の条件下にも耐えられる安全な装備を揃える		・地図を携帯して常に現在地を把握する

①利用申し込み

「KIRAWAY」WEBサイト登録フォームへ入力
(氏名、連絡先及び利用ルートの登録)

②消石灰靴底消毒槽への踏み込みの徹底強化 疫病のリスクを減らす



（２）ルートの変更と使用期間の設定

- ①酪農家の意向に沿ったルートの作成
- ②酪農の作業実態に則した、使用期間の設定
- ③国有林野使用許可に向けた申請の取組継続と承認までのルート回避

（３）ガイドによるプレミアムルートとして存続

現行に近いルートは、事前申込を受けてガイドが案内

- a) 地域資源（酪農、景観、生態系）としての価値向上
- b) ルール・マナーの徹底

KIRAWAYをいつまでも守り続けたい (町内の組織体制の変革)



(1) KIRAWAYの管理のためのNPOの立ち上げ



(2) 観光協会の業務内容、体制の見直し



(3) 観光協会と景観整備機構による観光地域づくり

(1) KIRAWAY管理のためのNPOの立ち上げ

NPO法人化の意義

- ①社会性の担保
- ②ビジョンの共有
- ③収益の確保

⇒持続的な管理

NPOの役割

- ✓ トレイルの維持管理
- ✓ 自然保護に係る啓発・レンジャー活動
- ✓ 入山時のルール, マナー理念の啓発
- ✓ トレイルを活用した環境教育
- ✓ 希少動植物の研究調査活動
- ✓ トレイルガイドの育成および派遣

課題：財源の確保

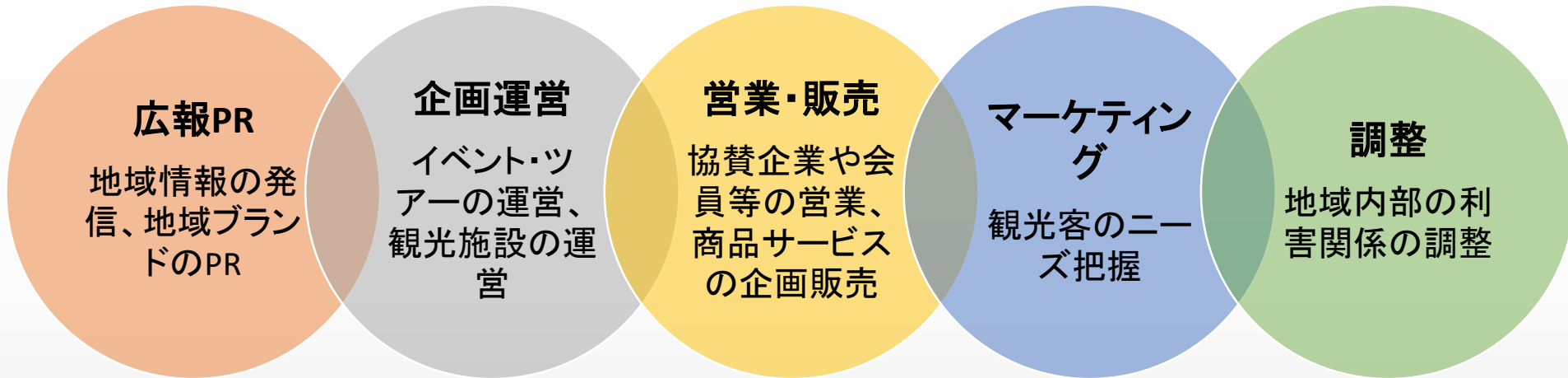
会費、寄付、ガイド収益

⇒観光協会の支援を受け、
将来的には独立した運営を目指す！



(2) 観光協会の業務内容、体制の見直し

これからの観光振興組織に求められる役割



中標津観光協会の改善点

- 担う業務の明確化
- さらなるビジョンの明確化
- 人員配置の見直し
- 収益事業の充実

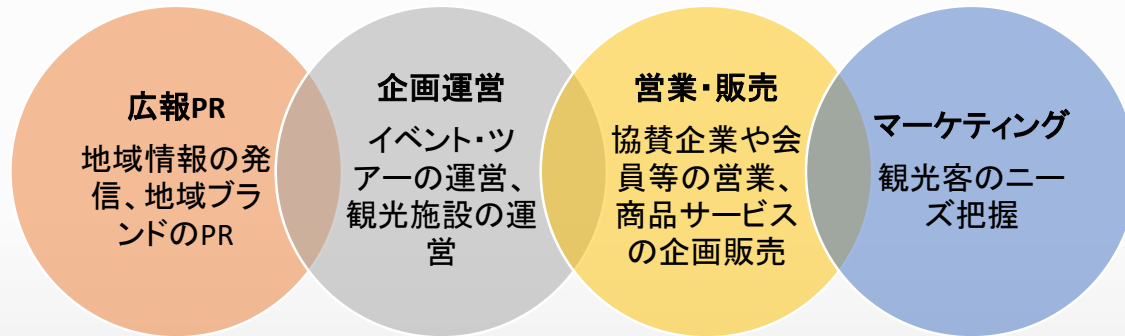
観光協会の将来的な役割

- KIRAWAYなどの核となる地域資源とコンテンツのコーディネート
- ターゲットを意識した、情報発信
- ガイド人材の発掘・育成
- 釧根地域における広域連携の窓口

(3) 観光協会と景観整備機構による観光地域づくり

観光協会—観光に関する運営実務

情報発信、マーケティング、営業活動、企画、窓口業務など



○KIRAWAYブランドを使用した商品の開発

ヨーグルトやアイスなどの乳製品をKIRAWAYブランド商品に
携行食として標津ようかんをKIRAWAYパッケージ化した商品

○観光商品の開発

コースの維持管理ツアー（草刈り、標識の作成・設置、新コース作成など）
豊かな景色と中標津の歴史を学ぶトレイルツアー、森林浴、牧場体験ツアー



中標津景観整備機構

各種景観まちづくりの支援

- ・中標津町農業協同組合
- ・計根別農業協同組合
- ・森林組合
- ・一般社団法人北海道建築士会中標津支部
- ・緑化管理組合
- ・建設業協会
- ・町民/各種NPO等活動団体
- ・観光協会

初期
段階

景観整備機構の事業例

景観整備、景観形成
景観まちづくり活動の支援
景観まちづくりに関する相談窓口
景観まちづくりの担い手を育てる人材育成

支援
相談

景観形成の調整・管理等

- ・飲食業連合会
- ・中標津青年会議所
- ・中標津町町内会連合会
- ・民間企業等の事業者
- ・まちづくり協議会
- ・老人クラブ連合会
- ・ロータリークラブ
- ・商工会

支援
相談

指定

協働

支援

中標津町(景観行政団体)

(3) 観光協会と景観整備機構による観光地域づくり

景観整備機構—様々な立場の人たちの合意形成

ワークショップ/フォーラムなどのイベント開催

調整

地域内部
の利害関
係の調整

○景観意識の醸成

KIRAWAYの認識・理解を通じて、

町の風土に調和した良好な景観を「守り・つくり・育てる」

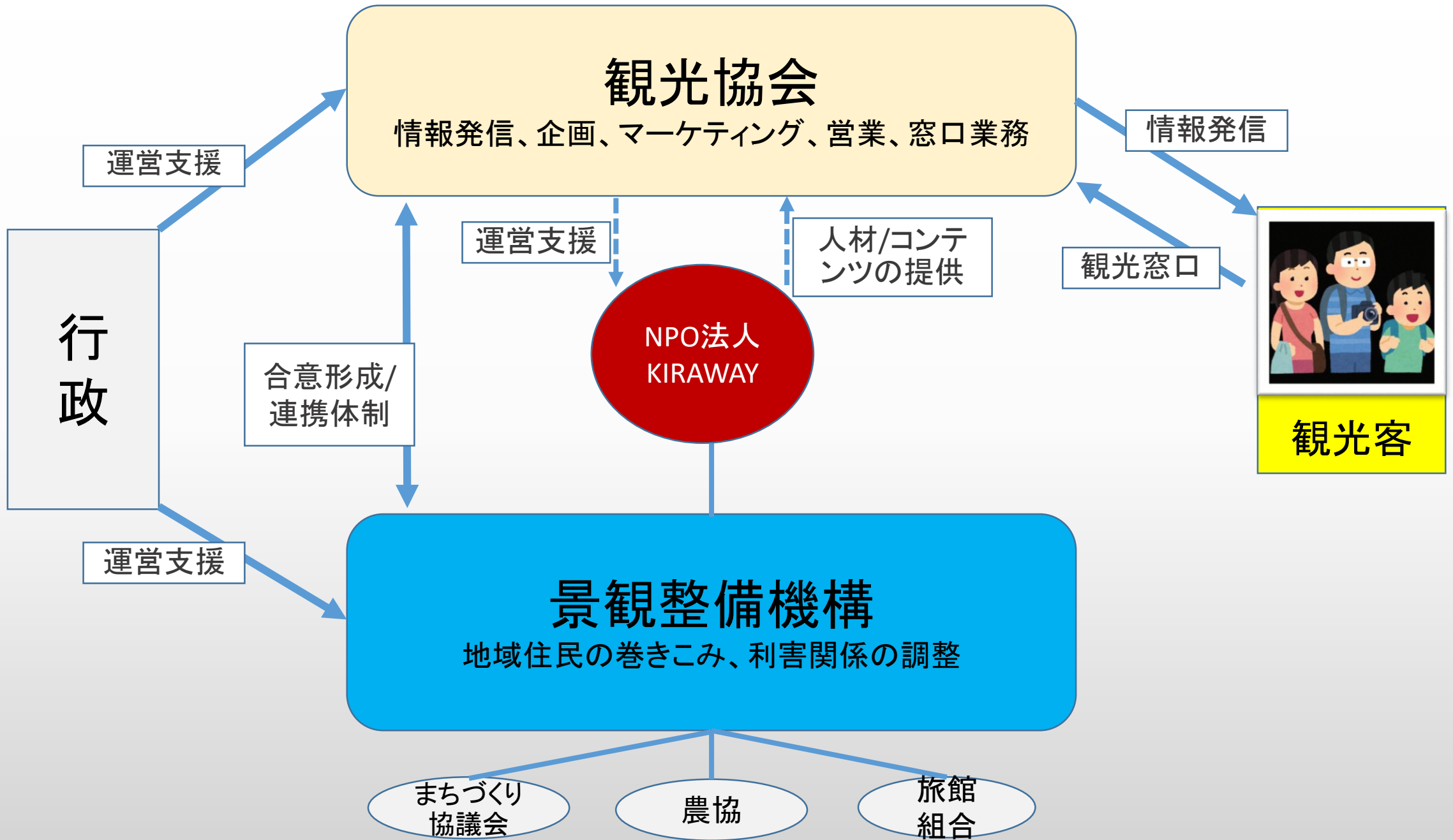
※KIRAWAYにとっても、町内の景観保全は重要

○酪農文化認識

KIRAWAY上での、酪農家と町民、観光客の交流が可能になれば、

中標津の軸である「酪農文化」への理解が深まる





①KIRAWAYの既存コースの
ルート変更、ルール徹底、ガイドツアーの導入

②町内の観光振興のための組織体制の再構築

⇒KIRAWAYを活用し、中標津の様々な地域資源の
有効的・持続的な保全に地域住民が主体的に
参画していく仕組みをつくる

町外への波及

+α 町内での連携体制をつかった上で、他地域と連携

☆中標津ロングトレイル整備のノウハウ提供

- ▶各地域のトレイル整備
- ▶▶各地域のトレイルとの接続
- ▶▶▶中標津、女満別、釧路エリアを結ぶ

空港連携トレッキングコースの創設

cf) Ranch way, Lake way, River way etc.

**中標津を基点に
道東地域における新たな
広域デスティネーション
(旅行目的地) 形成**



K I R ▲
W ▲ Y

Kita-Nemuro Ranch way



宮下照太郎(北海道大学公共政策大学院修士2年)
平柳恵太(北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院修士1年)
白佳召(北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院修士1年)
和合智子(北海道大学履修証明プログラム生)
工藤賢(北海道大学履修証明プログラム生)
谷屋翔(北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院修士2年)

